

一

あとの問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の文には誤った漢字が一字使用されている。例にならつて誤った漢字を抜き出して、正しい漢字に直しなさい。

例 私たちは以頼人のために、仕事をしている。 誤 以 ↓ 正 依

- ① 逆転の決勝点が入り、スタジアムの観客席から歓声があがった。
- ② 家庭科で使う裁縫箱をいつも忘れてしまい、先生に何度も注意されている。
- ③ 職業体験の授業で洛農の仕事に参加したが、翌日は筋肉痛で動けなかった。
- ④ 夏休みに家族総出で北海道に旅行して、余課を満喫することができた。
- ⑤ ケガの予防のためにも、部活動の練習前には必ず柔難体操をしなければならぬ。

問二 次の①～⑤のことわざや慣用表現の空欄にあてはまる漢字二字として適切なものをそれぞれ次のア～クから選んで記号で答えなさい。

- ① 清水の から飛びおる
- ② 釈迦に
- ③ 盆に返らず
- ④ 無用の
- ⑤ 寄らば の陰

- ア 説法
- イ 青菜
- ウ 舞台
- エ 大樹
- オ 覆水
- カ 草鞋わらじ
- キ 長物
- ク 馬脚

【一】 次の文章は、山口県の萩港はぎこうから北へ四五キロメートル離れた日本海にある見島みしまの稲作の歴史に関する文章です。次の文章を読んで、その問いに答えなさい。

見島には高い山はありません。 I 、高い山によって生まれくる川がないのです。川がないのにどうやって田んぼの水を確保したのでしょうか。

見島の最高峰はイクラゲ山で、標高一七五メートル。約二二〇〇万年前の火山活動でタンジョウした島で、百メートルほどの山々が集まっています。そんな山々の斜面には、棚田たなだが一面に拓ひらかれています。見島では、棚田のことを「だんかざり」と呼びます。ほかでは聞いたことのない呼び方です。段を飾っているというわけです。 A ちよつとステキです。「だんかざりの田んぼ」「だんかざりのマチ(田)」という言い方をします。

いつからそう呼ばれるようになったか、その呼び方の由来を探しましたが、わからないままでした。でも、優しくどこか雅みやびな、風情ふぜいある言い方を昔から見島の人はしてきたのです。

だんかざりの田んぼのあぜには、風よけのため、ススキのような植物が植えられています。人の背ほども高さがあります。これは「トキワ」と地元で呼ぶオニガヤ。江戸時代、この地を治めた萩藩はぎはんが風よけに広めた知恵といわれています。いわば、田んぼの防風林。見島だけでなく、山口県の日本海側の棚田にも風よけの生け垣が植えられています。

見島の山の中へ足を踏み入れれば、島の奥にはだんかざりの田んぼがたくさん拓かれ、それらを潤うるすため池もたくさんあることに驚きます。見島ではため池が水源なのです。それも田んぼのそばに小さなため池をたくさんつくることで米づくりを続けてきました。

大きなため池もいくつかありますが、大きなため池をつくるには、人手もお金も、また道具も必要です。小さな島ゆえにそれらが充分ではなかったのかもしれない。

それ以上に、海のだだ中にある島ですから台風直撃や豪雨も多いところ。 II 、少しでも被害を小さくし、すぐに自分たちで修復できるような小さな池しておくことは、島の賢い知恵でもあるのです。

では、見島全体でため池はいくつあるのでしょうか。気になるものの、その正確な数はわからないのが正直なところです。ちなみに、日本全国にため池は、約二〇万カ所あると発表されています。(a)

(中略)

このように、共同で使う大きなため池は数えられています。見島でカウントされているため池は、たった一四個のみ。個人のため池は公的に数えることがないからです。ですから、小さなため池を数えていくと、見島のため池は二〇〇個を優に超えるだろうといえます。

昭和三〇年代に見島へ調査に入った民俗学者・宮本常一みやもとつねいちの聞き取りメモには、見島のため池の数、「二五〇」と書いてありました。(b) そんな島ですから飲み水も苦勞してきました。現在は、二〇〇二年に完成した見島ダムのおかげでようやく飲み水に困ることはなくなりました。見島ダムは、農業用ダムと思われがちですが、飲み水用。

Ⅲ、低い場所にある田んぼを洪水から守る防災の役目も担っています。(c)

見島ダムができる前は、ボーリングしてくみ上げた地下水に、海岸線近くから湧き出す水を混ぜて飲み水にしてみました。ですから、山の木々を燃料など暮らしのために大量に伐採すると、地下水が枯れてしまう恐れがあるため、見島の人は山の木々も大切にしてみました。

現在、島の飲み水は、地下水二〇〇トンにダムの水二〇〇トンを加えた合計一日四〇〇トンが確保されています。かつては、水が足りなくなると地下水に塩水があがってきたといいます。ですが、水がないため、みんながまんしてその水を飲んでいたのでそうです。(d)

高い山がないにもかかわらず、山の木を守り、地下水があるのが見島ですが、夏場では塩水が混じってしまい、苦勞が絶えなかったのです。そんな見島で水をホウフ④に必要とする米づくりができたのは、おびたしい数のため池のなせる技だったのです。

(石井里津子『千年の田んぼ 国境の島に、古代の謎を追いかけて』より)

問一 部①～④について、カタカナは漢字を、漢字はその読みを答えなさい。

問二 本文中 I Ⅲ に当てはまる適切な接続詞を、それぞれ次のア～オから選んで記号で答えなさい。

- ア そして イ なぜなら ウ そのため エ つまり オ もし

問三——部A「ちよつとステキです」とあるが、その理由を説明した次の文の空白にあてはまる言葉を本文中から**二十字以内**で抜き出して答えなさい。

見島の人たちが「だんかざり」という

二十字以内

をしているから。

問四——部B「見島のため池」とあるが、見島のため池の特徴と米作りの関係について**五十五字以内**で説明しなさい。また、解答には次の言葉を必ず使用しなさい。

大きなため池

水源

問五——部C「見島ダム」とあるが、見島ダムの役割や特徴を説明したものととして最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 本来は農業用として作られたダムであるが、飲み水の不足が続いたため飲み水用ダムとして使い方が変更された。
- イ ボーリングして汲み上げられた水と、湧き水の二種類が混ざることによってダムに水が貯まる構造となっている。
- ウ 見島の飲み水は合計一日四〇〇トン確保されていると考えられるが、そのうちの半分を見島ダムが担っている。
- エ 見島ダムの水は水量が減ると塩水が混ざるので、米作りには適しておらず、飲み水として活用されている。

問六 本文には、次の一文が脱落しています。この一文を補う場所として最も適切な場所を本文中（ a ） ～ （ d ） から一つ選んで記号で答えなさい。

ため池の多さは、川のない島ゆえの宿命といえるかもしれません。

問七 本文の内容を説明したものとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 山口県にある見島は地震による地盤の隆起によってできたと考えられており、険しく高い山が連なっていてきている島である。
- イ** 山口県では江戸時代以前から「オニガヤ」を自然由来の防風林として活用する風習があり、見島でもそれを取り入れている。
- ウ** 見島のため池の数は、共同で使うもので二〇〇を超えるが、あまりにも小さいのでカウントされていないものが多い。
- エ** 見島の山の木々を伐採し過ぎると、地下水への影響が出る可能性があるため、島の人は水だけでなく木も大切にしてきた。

三

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。主人公の高橋さおりは、演劇部部長の高校三年生で、部活では脚本と演出を担当している。県内の強豪校からの転入生である「中西さん」と一緒に、自分たちの参考にするため、高校演劇大会の全国大会を見学しに来ている。

最後の五校目は、お目当ての秋田の高校だった。

顧問の先生は、途中、転任があったにもかかわらず、四年連続で全国大会出場。うち二回は最優秀、四回とも優秀校（ベスト4）に選ばれている。自分でも劇団をやっているし、プロの劇団にも何本か戯曲を書いている。

そんなセミプロみたいな教員が高校演劇をやるのはおかしいという批判もあるみたいだけど、でも普通の公立高校の英語の先生で、何か特別なことをしているわけではないのではないだろうか。文句を言うのは筋違いだろう。

「自分の劇団では、『静か系』を書くみたいだね」

中西さんが、パンフレットを見ながらぼつりと言う。

「観たことある？」

「ないけど、周りの人はけっこう見てみたい。普段は秋田弁使ったお芝居とからしいけど」

吉岡先生からも、この高校と顧問の先生の話は何度か聞いた。去年までの衛星放送でやったビデオも全部観た。たしかに上手いし、生徒を生かす方法をよく知っている。私がいま、一番身につけなきゃいけないことだ。どうやって身につけられるのか、その秘密をAで買えたりするんだったら、買ってしまいたい。親に借金してでも。

「高橋さん、なんか緊張してない？」

「そんなことないよ」

と言いつつ、私は本当は、すごく緊張していた。これから始まる舞台を一秒も見逃すまいと思った。そこにある秘密を、全部、残らず買って帰るんだ。私は、パンフレットの下で、握り拳を硬くした。

秋田C高校は、たしかに素晴らしかった。沖縄に修学旅行に行った脳天気な高校生たちが、少しだけ戦争や平和について考える。押しつけがましくもなく、説教臭くもなく、でも茶化すでもなく。

何より、吉岡先生が言っていたように、誰一人として登場人物に無駄がなかった。台詞が棒読みのような子もいたけど、その子は、なか

なか女の子に告白できない不器用な高校生役で、最初はわざと棒読みしているのかと思うくらい、はまっていた。

恋愛や進路の話も、会話の中に上手く組み入れられていて、本当に私たちがふだん話しているような内容だった。でも、その一つ一つのエピソードが、全部話の本筋に絡んでくる。戦争のことも、いまの沖繩のことも考えざるを得ない。なんなのこれ。こんな作品じゃなきゃ全国に出られないのだとしたら、ちょっともう絶望的だ。

「すごかったね」

「うん」

「あんなの書ける？」

「書けない……っていうか書かないし、私は」

帰りの電車の中で、私は少し不機嫌になって、ずっと窓に額をつけていた。中西さんが、ときどき、ぼつりぼつりと話しかけてくる。いつもと逆だ。

「すごいね、星」

「え？」

「星、すごくなってきた」

「本当だ」

甲府を出て、しばらくして、相模湖のあたりだろうか。急に大きな夜空が車窓に広がって、私は一瞬、目まいがした。「決めた」

私は、珍しく独り言のように呟いた。

「え、なに？」

「I」

「……じゃあ、いい」

中西さんも、だんだん不機嫌になった。そのまま黙っているうちに、電車はだんだん都会に近づいてきた。八王子を過ぎたあたりで、さすがにこのまま別れるのはまずいと思って、私から口を開いた。

「書くこと決めたよ」

「そう、よかった」

「聞かないの？」

「Ⅱ」

「ありがとう」

「合宿まで、会えないかな？」

「たぶん、私は県の研修会行くし、あとは図書館で集中して書く」

「そうか」

「中西さん、ワークシヨップ頑張ってる」

「うん」

「私、絶対いいもの書くから」

「うん、ありがとう」

それからまた、私たちは黙ってしまった。上り電車通勤とは逆方向のはずだけど、立川でたくさん人が乗ってきた。さすが東京だ。

「Ⅲ」

「え、なに？」

「私もさおりって呼ぶから」

「ああ」

「ね」

「でも慣れるかな」

「慣れるよ、すぐ」

そして、また沈黙。三鷹という駅を過ぎたあたりで、中西さんが、また口を開く。

「ここ、一昨日来た。芝居観に……駅からすごい遠いんだけど、劇場が」

「そう」

「次の吉祥寺も来た」

「あ、吉祥寺は聞いたことある」

「いいな、芝居がたくさん観れて」

「……私、演劇部、頑張るから」

「え、なに？」

「私、友だち作るのとか苦手だけど」

「え？」

それから、また中西さんは静かに、窓の外を見た。

しばらくして、電車は新宿駅に着いた。そこで私は中西さん、じゃなかった悦子えつこと別れて、埼京線さいけいせんに乗り換える。二人とも、ほとんど無言で、手を振って別れた。

中西さんと別れてから、乗り換えの駅のホームで、私は吉岡先生にメールをした。

「『銀河鉄道の夜』にしようと思います。途中の駅を降りてからのエピソードは、それぞれ、みんなに考えてもらいます」

大宮に着く頃、吉岡先生から返信が来た。

「いいね！」

(平田オリザ『幕が上がる』より)

問一 〓部①～③の語句について、本文中の意味として適切なものをそれぞれ次のア～ウから選んで記号で答えなさい。

① 筋違い

ア 道理に合わない

イ 力を入れすぎて筋肉を痛める

ウ 細かい部分にまでこだわる

② 脳天気

ア 頭の回転が速く、悩まない

イ 物事を深く考えず、のんきである

ウ 天気に影響を受けず、いつも元気である

③ 押しつけがましく

ア 相手の気持ちに構わず、無理に受け入れさせる

イ 謙虚で、相手に遠慮している

ウ 人に言われたことに逆らえない

問二 〓部A「その秘密」とあるが、具体的に何のことか。本文中から八字で抜き出しなさい。

問三 本文中の空欄 I 〓 IV に入る台詞として適切なものを、次のア～エからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア いい劇場だったよ

イ 楽しみにしてる

ウ 悦子でいいよ

エ なんでもない

問四 — 部B「少し不機嫌になって」とあるが、その理由を、**七十字程度**で説明しなさい。また、解答には次の言葉を必ず使用しなさい。

全国

絶望的

問五 — 部C「書くこと決めたよ」とあるが、何を書くことにしたのか。本文中から**六字**で抜き出して答えなさい。

問六 — 部D「私、演劇部、頑張るから」とあるが、ここでの「中西さん」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 全国大会の雰囲気刺激を受け、自分なら絶対に全国に行けると自信を深め、意気込んでいる。
- イ 全国大会を踏み台にして、吉祥寺の劇場で演じられる女優になろうとひそかに企んでいる。
- ウ 全国大会と一緒に見るという経験を通して、初めてできた友だちの存在に舞い上がっている。
- エ 全国大会の雰囲気圧倒された様子のさおりを気遣い、自分もできることをやろうと決心している。

問七 次のア～エは、本文について生徒たちが話し合っているものである。本文の内容や解釈、特色として適切でないものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 生徒A「主人公の視点で進んでいく小説だね。『すごく緊張していた』、『ちょっと絶望的だ』など、さおりの心情がよくわかるところがあって、読者に直接伝わってきて読みやすかったよ」

イ 生徒B「会話文に特徴があるよね。聞こえづらくて『え、なに？』と聞き返したり、『ああ』と流したりするような台詞があえて使われていることで、小説というより本当の会話のようなりアルさを感じたな」

ウ 生徒C「内容は、重々しかったよね。全国大会を見て感じた衝撃で、主人公が挫折してしまって。登場人物は二人とも不機嫌になってしまっていたし、ここからどうなるのか全く分からないな」

エ 生徒D「主人公と一緒に出てくる『中西さん』の存在が気になったな。二人にはまだどこちなさがあったけど、でも名前で呼ぶようになつたり、これから仲良くなつていく予感もあったよね。続きが気になるね」

四

次の古文は、『竹取物語』の一節である。かぐや姫が美しいという噂を聞いた帝は、内侍であるふさ子に勅命（仰せ言）を下し、かぐや姫の美しさを見定めるための使いとして派遣する。それに続く次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

嬪に、内侍のたまふ。

「仰せ言に、『かぐや姫の容貌、優におはすなり、よく見て参るべき』よし、のたまはせつるになむ、参りつる」と言へば、

「さらば、かく申しはべらむ」

と言ひて入りぬ。かぐや姫に、

「はや、かの御使に對面したまへ」

と言へば、かぐや姫、

「よき容貌にもあらず。いかでか見ゆべき」と言へば、

「うたてものたまふかな。帝の御使をば、いかでかおろそかにせむ」と言へば、かぐや姫の答ふるやう、

「帝の召してのたまはむこと、かしこしとも思はず」

と言ひて、^Aさらに見ゆべきもあらず。生める子のやうにあれど、いと心はづかしげに、^Bおろそかなるやうに言ひければ、心のままにも^Cえ責めず。^{*3}

嬪、内侍のもとに遣り出でて、

「口惜しく、この幼き者は、強く侍る者にて、對面すまじき」と申す。内侍、

「必ず見奉りて参れと仰せ事ありつるものを、見奉らでは、いかでか帰り参らむ。国王の仰せ事を、まさに世に住み給はむ人の承り給はであ

りなむや。いはれぬ事なし給ひそ^{*4}

と、言葉はづかしく言ひければ、これを聞きて、まして、かぐや姫聞くべくもあらず。

「国王の仰せ事を背かば、はや殺し給ひてよかし」と言ふ。

〔竹取物語〕より

*1 いかでか見ゆべき 「いかでか」は「どうしてだろうか、いや／＼ない」という反語表現。本文中の「いかでか」はすべて反語表現となっている。

*2 はづかしげ こちらが気後れするような様子。

*3 え責めず 責めることができない。

*4 なし給ひそ してはいけません。

問一 〳〵部 a 〳 c について、その本文中での意味として適切だと考えられるものを、それぞれ次のア 〳 工 から一つ選んで記号で答えなさい。

a うたて

ア すばらしい

イ ひどい

ウ 嬉しい

工 面白い

b おろそかに

ア 丁寧に

イ いい加減に

ウ 心細げに

工 腹立たしげに

c 強く侍る者

ア 明瞭な者

イ 賢い者

ウ 屈強な者

工 頑固な者

問二——部A「さらに見ゆべきもあらず」とは、「全く会おうともしない」という意味であるが、かぐや姫がふさ子に会おうとしない理由として適切なものを次のア～オから二つ選んで記号で答えなさい。

- ア 帝本人が来るのなら理解できるが、本人が来ないのは失礼だと思っているから。
イ かぐや姫自身は、自らを美しいと思っていないので会う必要がないから。
ウ 月に帰るときに、帝との恋愛が未練となってしまふと月に帰りづらくなるから。
エ これから先いつまでも竹取の翁と媼と一緒に暮らしていきたいと考えているから。
オ たとえ帝がどんなことを言ったとしても、恐れ多いとは思わないから。

問三——部①「のたまふ」②「はづかしく」をそれぞれ現代仮名遣いに直して、ひらがなで答えなさい。

問四 本文には、カギ括弧（「」）の台詞部分が合計九ヶ所あります。その中で最も台詞の多い人物と、最も台詞の少ない人物をそれぞれ次のア～ウから選んで記号で答えなさい。

- ア 内侍（ふさ子） イ 媼 ウ かぐや姫

問五 本文中 で囲まれた中から、帝の発言と考えられる部分を十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 本文の内容を説明したものと**して適切なものにはAに、適切でないものにはBに○を付けなさい。**

ア 媼と内侍のやり取りを陰で聞いていたかぐや姫は、自分の気持ちも確認せずに進める二人のやり取りから不信感を抱き拒絶感をのぞらせた。

イ 媼はかぐや姫を自分自身が生んだ子どものように感じていたので、きっぱりと断るかぐや姫の態度をみて、ありえないことだときつく叱った。

ウ 内侍は国王である帝の命令は国に住む人たち全員が従うべきであると述べて、かぐや姫の態度はそれにふさわしいものではないと非難した。

エ かぐや姫は、国王である帝の意に反した態度を取っているのだから、気に食わなければ私を殺せばいいのだと強い口調で述べた。

問七 「竹取物語」について説明した文章として最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 作り物語。現存する日本最古の物語として後世に大きな影響を及ぼした。

イ 歌物語。実在する男性を主人公のモデルとし、「男」の一代記ふう構成されている。

ウ 随筆。類聚的章段・日記的章段・随想的章段の約三〇〇段からなる。

エ 日本最大の説話集。一〇〇〇話以上の仏教説話と世俗説話が収められている。

問題は以上です。

